



全日病 S-QUE e ラーニング 看護師特定行為研修

フィジカルアセスメント

共通科目



5.身体診察基本手技の演習・実習／部位別身体診察手技と所見の演習・実習

腹部、胸部のアセスメント

岸和田区徳洲会病院救命救急センター医長

薬師寺 泰匡 氏

フィジカルアセスメント 実習2

岸和田徳洲会病院
救命救急センター
薬師寺泰匡

本日の内容

目標

- ・多様な臨床場面における重要な病態の変化や症状を適切にアセスメントできる
- ・今後必要となる処置や検査の予測ができる

内容

- ・症例で実際に主観的情報、客観的情報を系統的に取得できるように実習を行う
- ・腹部、胸部のアセスメント

腹部アセスメントのポイント

- ・視診、聴診、打診、触診の順に行う
→聴診の前に打診や触診をすると蠕動に影響する
- ・視診：外観の異常をチェック
輪郭、形状、皮膚の性状、静脈怒張など
- ・聴診：腸蠕動音や血管雑音をチェック
聴診は1分、できれば5分、30分やれば完璧

腹部アセスメントのポイント

- ・打診：腹腔内、腸管内の様子を伺う
鼓音→腸管内にガスが貯留
濁音→腸管内に便が貯留、腹水が貯留
- ・触診：腹壁や腹腔内の病変を検索
浅い触診(1-2cm軽く圧迫)
深い触診(3-5cmしっかり圧迫)
痛くないところから触る
筋性防御は静かにゆっくり圧迫して評価
反跳痛は2-3秒ゆっくり押して素早く離す

肝臓のアセスメント

肝臓のアセスメントの手順

- ①仰臥位になってもらい、両膝を軽く曲げてもらう
- ②患者の右側にたち手をあたためる
- ③患者に最大吸気時に呼吸を止めてもらう
- ④鎖骨中線上の肋間を乳頭付近から下方へ打診していき、清音から濁音になった部分に印をつける
- ⑤呼吸を楽にしてもらい、再度最大吸気時に呼吸を止めてもらう
- ⑥鎖骨中線上を臍の高さから上方へ打診していき、鼓音から濁音になった部分に印をつける
- ⑦2点間を測定する

6-12cmであれば正常、6cm未満→萎縮、12cm異常→腫大

腎臓のアセスメント

腎臓叩打診の手順

- ①座位もしくは側臥位になってもらう
- ②患者の肋骨脊柱角(CVA)に手掌をおく
- ③手掌の上から拳で叩く
- ④左右行う(正常なら叩打痛はない)

腎臓触診の手順

- ①仰臥位になってもらい、患者の右側に立ち左手を右CVAに、右手を腹直筋右外側に置く
- ②最大吸気後の呼気時に頭側に移動する腎を挟み込むように触診(触知できる場合は腎腫大)
- ③患者の左側で左右の手を変えて同様に行う

胸部アセスメントのポイント

- ・視診、触診、打診、聴診の順に行う
→簡便なものから、侵襲の少ないものから
- ・視診
皮膚の変化はないか
呼吸に伴い左右差なく動いているか
胸郭、脊柱に変形がないか
鎖骨、肋骨、肩甲骨の左右差や変形はないか
呼吸補助筋の使用はないか

胸部アセスメントのポイント

- ・触診
呼吸器: 胸郭の動き、皮膚の状態、皮下気腫
声音震盪
減弱→気道の閉塞、肺の過膨張、胸膜肥厚、胸水
亢進→肺胞内の水分貯留、含気減少
心臓: 心尖拍動(臥位がよい)
正常なら最強点は胸骨中線左側10cm以内
正常なら触れる範囲は2cm程度
- ・打診
通常は清音(濁音や鼓音がないかチェック)
肺肝境界のチェック

胸部アセスメントのポイント

- ・聴診
呼吸音
減弱や増強がないか
呼吸音の延長がないか
副雑音がないか(連続音、断続音、肺外由来音)
心音
I 音 II 音の亢進/減弱 III 音IV 音の有無
心雑音がないか(それぞれの弁領域で)

実習の前に

- 準備するもの
 - ・模擬患者(シナリオをお渡しします)
直接取れる所見はとっていただき、聴診所見などはファシリテーターが口頭で述べるかこちらが提示します
 - ・聴診器
 - ・筆記用具かパソコン(カルテ記載用)
- 二人一組で実習を行います
患者役は用意されたカルテ記載を参考に問診に答えてください。問診が終了したら、カルテ記載を完成して、患者役が持っているカルテと照らし合わせてみましょう。また身体所見を実際にとり、カルテ記載を行います。

実習 症例1

38歳男性が右腰部から右側腹部にかけての疼痛を訴えています。

BP 170/80 HR90 RR18 SpO2 98%(RA) BT36.8℃

Q.この人のフィジカルイグザミネーションの一環として腹部のアセスメントを行ってください。得られた所見はカルテにまとめて、どのような病気が疑われるか、今後どのような検査が必要となるかを考えて記載してください。

実習 症例2

42歳女性が右季肋部の疼痛を訴えています。

Q.この人のフィジカルイグザミネーションの一環として肝臓のアセスメントを行ってください。肝臓の大きさを打診により評価し、得られた所見をカルテに記載してください。萎縮もしくは腫大していた場合はどのような疾患を考えるべきか検討しましょう。

実習 症例3

73歳男性が呼吸困難を訴えています。

BP 190/80 HR120 RR28 SpO2 92%(5L) BT35.8℃

Q.この人のフィジカルイグザミネーションの一環として胸部のアセスメントを行ってください。得られた所見はカルテにまとめて、どのような病態が考えられるか、今後どのような検査が必要となるかを考えて記載してください。